

日米親善吟剣詩舞道交流会を終えて

日本詩吟協会 武田誠風

去る6月14日、日本クラウン吟友会・日本詩吟協会共催による日米親善吟剣詩舞道交流会が由緒あるロサンゼルス・日米劇場に於いて盛大に開催されました。

海老澤宏升団長以下総勢80名交流団を結成致し渡米致しました。米国側は参加者含めて650名の動員により総勢730名の舞台・客席が一体となり熱く燃え上がりました。日米スタッフは朝六時半に集合。やたらと旨いカルフォルニア米のおにぎりをハウバリながらミーティングを開始、舞台では日本語、英語が飛び交う中、音響・照明と準備が始まり何やら慌しくなってきました。

九時には日本の出演者の集合です。リハーサルも慌ただしく時間が足りない。午後一時からの開演前に全体集合記念撮影の立ち位置を決めて、個々の準備に入りました。日本側出演者は全員が着物です。間もなく開場です。

お客様の列がリトル東京の街を埋め尽くすかの様な長蛇の列に驚きました。客席は瞬く間に埋まり、私は二階席に上がって、アメリカ人家族のお父さんと子供さん二人に聞いてみました。ロス市内ダウンタウンから来たようです。日本のアニメが大好きでかぐや姫を知っており、開演が楽しみな様子でした。

司会は日本側スタッフにより進められ、司会の第一声が英語で始まると大きなどよめきの中、万雷の拍手で開演となりました。羅府國誠流詩吟会・西川國順会長のユーモアたっぷりの開会の挨拶。そして第一部南カリフォルニア詩吟連盟吟詠の部が始まりました。

米国でどのような吟詠が行われているのか興味深く聞き入りました。八十年の歴史に変わる事無く吟詠の原点に触れた気が致します。日本人で有り、日本固有の芸能に対して胸を張って堂々と吟じる姿に心打たれました。

第二部の日本訪米団の海老澤宏升先生、入倉昭山先生の吟剣詩舞「織田信長」は会場から割れんばかりの拍手と声援に誰しも胸が熱くなったことは生涯忘れる事が出来ないと思います。

式典では、在ロサンゼルス日本国総領事館、総領事・堀之内秀久様よりメッセージが届けられ、はるばる日本より親善交流の為、御足労をねぎらう御言葉と七十五年前強制収容所で故郷の日本を思い詩吟が伝わって今日まで来たと言うメッセージに、

今回の交流に対する大歓迎の熱意が理解出来ました。米国の吟詠家は、海老澤宏升先生が26年前行った交流会が再び開催される日を待ち望んでおられたのかと思います。

挨拶は米国側代表として日本国誠会・荒國誠宗家による感謝の言葉、続き海老澤団長のユーモアたっぷりの挨拶に会場も和らぎ拍手と掛け声の大きさに交流会大盛会へと導かれるようでした。

この公演の収益金の中から南カリフォルニア詩吟連盟・世木錦光理事長様より日系博物館に対して寄付金の贈呈式が行われました。日米劇場の近くにある日系博物館は第二次世界大戦時の日本人強制収容所の記録が展示されており、米国籍日本人の苦渋の過去が読み取れます。

三十分の休憩後、いよいよ企画構成番組【かぐや姫】の開演です。吟詠と剣舞・詩舞・映像と音楽が相マッチしての展開に観客を魅了した事は、会場中、鳴り響く拍手と声援が物語っていました。

星野紫虹副団長の閉会の言葉で大盛会の中終了となりました。

別会場での懇親会には米国側も 35 名の方が出席され二時間半の懇親会は旧知の吟友同志であるかの様に日米の深い絆が結ばれた事と確信致しました。日本の素晴らしい芸術文化をどうして伝え、広げて行けるのかをお話される指導者の御苦勞は異国の地でも同じなのかと心に残りました。同時に米国側の惜しみない協力と、日本各地からご参加下さいました先生方に熱く感謝申し上げます。

又、米国側の皆様から、次回の計画を熱望され今後、日本の斯界からの交流が拡大される事を期待したいと思います。